

四次元の生活

龜田一弘

。5%に入る人になれ

昭和52年7月28日

私は今、新潮社版、コリン・ウイルソン著、中村保男訳の「オカルト」の上巻を再読している。その58～59頁に「人間たちの間に見えぬ支配的少数者が、パーセンテージにいく5%にあたり、「オカルト」的の能力を有するものも、同じく5%にあたる。それから、朝鮮戦争の時に、中国側は、アメリカ人捕虜を管理するための人員を節約するために、捕虜を2つのグループに分けることにした。即ち、進取的の気象に富んでいるものたちと、受動的なものたちとに分けたのである。その時に、中国側は進取の気象に富む兵たちがカッキリ20人に1人の割合、即ち、5%にあたることを発見したのである。動物学上でも、すべての動物の場合に、支配的5%が当りはまる5%。また原始社会においても指導者達は司祭でもあり、魔術師でもあった。狩猟部隊を指揮した男たちもまた、ジャングル感性を所有している人々であった。これらの指導者達を他の者から区別しているかは何であったのか。それは非常事態に際して、焦点を合わせる力、即ち、集中力を有していることだった。以上の如くに述べられているが、これは面白いことでもあり、正しいことでもある。私達が現在、こうして存在しているのは両親から生まれたのであり、その両親もまた、その両親から生まれたのであり、そればかり、私達までに到る祖先達の中で、所謂、原人と呼ばれぬ処の、いわゆる初歩的の智能と言語とを持った人々から現在の私達までの間には、天文学的な数の祖先達が在った筈である。それ、それらの人々が生存し、子に生命を相継いで来たのはこそ、現在、私達が、ここにこうして生存しているのがある。つまり、私達の生存は私たちの祖先達の輝やかな勝利の標識(しるし)にあるということになる。他の、この自然界の生物と同様に、私達もそれらの輝やかな生活の経験と潜在的に大脳の中に遺伝された、生まれ出ているのがある。それを、意欲的に、やる気を起して掘り出し、思い起させるものは「素晴らしき智慧」となると時々刻々に湧き出てくるのがある。原始時代には、この宇宙の自然界の有様はすべてが謎であり、すべては神秘であった。森には妖精が居り、雷神や、風神が在った。天は、おそろしいものがあり、天道に叛けば、天罰

イキ面があり、天変地妖が起ったものと考えられた。それか
 やや文化が進むに到り神々や魔物は追々に姿を消してい
 った。コロンブスは日蝕を応用し、アメリカの原住民を威圧
 した。新田義貞は、汐の干満を知り、故にわざわざ黄金
 づくりの太刀を箱村ヶ岬の海に捨てる、味方の軍兵を奮起
 させた。これをさも考えると、人間の場合には、他の自然
 界の生物と異なり、祖先達から遺伝された素晴らしい生き
 る智慧の外に、今一つ、学が獲た智識というものが重要
 であることが判明するのがある。私が、自らが多少の超能力
 を有するものがあるが、世に超能力を有すると称する人達
 の中には、洋の東西を問わず、大脳の機能が変調を起す
 る男女が多いのである。これは、半ば狂人やあり精神の異常者
 であり、前記の5%の指導者の中に加えることが不可能であ
 る。斯くの如き人達を崇め、教祖とした宗教は、これ迷信家の
 集団であり、愚者の群衆である。賢者はすべしかく、祖先から遺
 伝された智慧に目覚めた上に、日に日に進歩開発される如
 の科学の中から正しいものを選び、学が採り、それを智識と
 し、脳裡に蓄え置くと同時に、常住座臥、意欲的に生きる
 ために大宇宙の物理的の法則に沿った行動を考え、それ
 を行なうべきである。

・ 八方破水の構え

昭和52年8月11日

私は平常、私の個体(肉体)は、人間と言う、此の地球上の
 自然界の生き物として喜怒哀楽を感じ、食住の生活にも
 欲をもつ生活をしていながらも、いかなる時にも己自身を
 大所高所から鳥瞰図的に眺め、己自身を機制したり、ま
 たは前向きに動かしたりしているが、他から見ると私自
 身が、あたかも自由自在に生活している如くに見えるかも
 しれないが、それは私の肉体とそれに伴った感情や情緒
 の現われと、それと私の知恵と分別とに拠るものがある。
 とあるが、私にはもうひとつの重要な祖先達から遺伝され
 る、私の脳神経に蓄えられている如の祖先達が都合よく生
 きてきた数多くの生きるための智慧がある。昆虫であるみ
 つ蜂やハチや蝶や、それから鳥も魚も獣類も皆悉くそれを遺
 伝され持っている。植物もまた、その祖先達から生きるた
 めの手段方法と遺伝され忠実に生きている。俗に言う本
 能がそれである。私は努力研鑽として、私は両親から溯
 り、大祖先である如の原人にまで至るまでの、天文学的
 数の祖先達の中で、きょう烈な生きるための好む努力をし

た人物や傑出した男性女性の人達から遺伝された大脳の神経の中に蓄えられたものを私の智慧として発掘し、私が出生後に得た知恵の根元として生きている。その故に、私は常に私の祖先達と共に時空を超越して生きていることになるのである。四大時中、私の自我の拡大に、そして私に対し、サイバネティックに働いてくれるのは、つまり四次元的に拡大された私自身ということになるのである。私は四大時中、腹に力が入っている。そして肩や手や脚や膝や下腿には、必要がない時には、すべいカを入れていることをしない。つまり、柔軟に力を抜いている。そして大脳の神経だけでは、さしたる状態に在るように訓練している。それは眼底にだけ力がかかっていることになるのである。そして何事についても、周到に経験を生かして事前に考慮をし、心の準備をした上で、いざ本番となる場合は、何等の構えも立てない。機に臨み変に応じて自由自在に己の智慧を導きによつて、知識による智慧分別を活用して行動をするのである。つまり、外観上では、八方破れの型になるのである。それが即ち「無の構え」であり、磨きすぎた精気と気合とを大脳の神経から発し、そして肉体は柔らかく、頭脳は澄み渡って咄嗟の行動に出ることが出来る。即ち、それはある。ここは、膝下丹田(腹)に力を入れるには唄やも歌曲やも声を出さないで腹から出す息を、歌うのである。これを訓練を積み重ね、常時丹田に力が入っているようになる。膝下丹田に力が入っているのは、両肩を始め全身の力を抜けば、柔軟な構えになる。又、直立して、安定した姿勢になるには、両足を10センチ位開いて両肩の力を抜き、腹に力を入れ、そのまま尻を動かさずして、両膝頭を前に5センチ位、突き出せばよい。椅子または畳に正座する時は、腹に力を入れ、両肩の力を抜き、尻を後ろに突き出し、腰の力を抜いて両手を軽く膝の上に置くのである。斯くの如くに安定した体位で瞑目して、静かに、大宇宙空間に充満したエネルギーを想像して、それを全身に吸収するつもりで構える事、約20分で、全身が暖まり、安らかに納まった上に、頭脳は冷徹に澄みわたって、天地の総存在と自己とが、混然と同和するのである。